

## カナダ ウィスラー&バンクーバー7日間

～第5回アルゴ海外スキーツアー紀行文～

札幌中央 坂井和夫

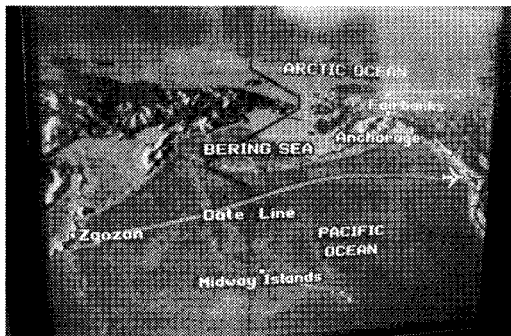
シンフォニー・ハーモニーの全景、中心にブラックタスク

### はじめに

アルゴは今年創立10周年を迎える節目の年となりましたが、これを記念する行事の一環として海外スキーツアーが発案されました。

アルゴの海外スキーツアーは今回で通算5回目（バンフ、イシュゲル、ツェルマット、ウィスラー）となりますが、これまでは旅行日程が9～13日程度と長いことや、費用面での負担などで参加しやすい条件が考慮されました。

費用面では燃油サーチャージが予想より下がらなかった以外は、スキーリフト券が3日間の内1日分がサービス、2日分が最盛期の半額となり負担額が相当軽減されました。



成田から一路バンクーバーへ

参加者は当初15人程度の見込みが最終的に13人のツアーとなりました。

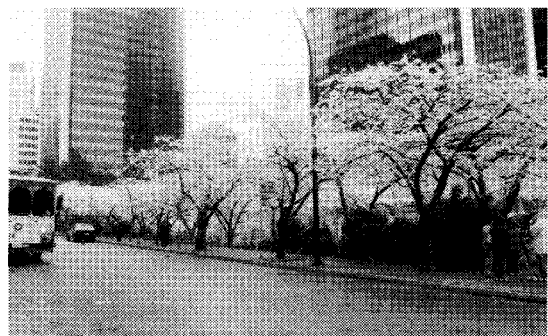
予定されていた航空便が確保されず2人だけが早朝便で発ち他の者が小型機で、しかも荷物は羽田回りで成田に送られるという予想もしなかったトラブルもありましたが、大半が数度の海外旅行経験者だったため全く問題はありませんでした。

出発4月11日。帰国4月17日。7日間のエピソード

を含めてその道中記を紹介します。

### 1 バンクーバーからウィスラーへ

成田からバンクーバーへはアリューシャン列島からアラスカ南部を掠めるように偏西風に乗って一気に飛行します。（飛行時間9時間・途中日付変更線を越えマイナス16時間）従って成田を出発したままの11日午前バンクーバーに到着、直ちにバスに乗り換えて一路ウィスラーへ向かいます。



バンクーバーはソメイヨシノの花盛り

今回は空港のあるリッチモンド市からバンクーバー市に入り市内のホテルで現地ガイドの田村夫妻と合流し、車内で滞在中のガイダンスを受けながらハイウェイ99号線（通称オリンピック道路）を経てウィスラーを目指しました。

途中、スコーミッシュ（母なる風の意）で昼食休憩をとり約2時間でウィスラーへ到着。なじみ深いウィスラービレッジインに荷物を置き直ちにタウンガイドでビレッジの状況把握をしました。

街の様子に変りはないものの来年開催のバンクーバー五輪に備えたセレモニー用のステージ

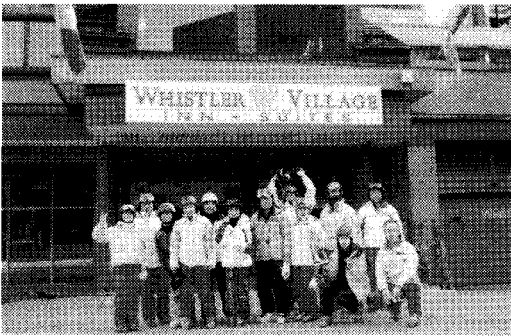
が設けられ、これを舞台に音楽ショーなどが催されていました。

## 2 ウイスラー・ブラッコムスキー場

ウイスラーはベースが標高675mで、ウイスラービレッジを中心に扇を広げたようにウイスラーとブラッコムの二つの山が左右に広がり北米最大のスケールを誇っています。

標高差1800mの範囲に12のボウルと3つの氷河、さらに200以上ものコースがレイアウトされています。このコースの中には2010年開催のオリンピックで使われる男女滑降の他スーパー大回転やスラローム、コンバインド、ボブスレー、スケルトンなどが含まれていて、一般客はオリンピック開催中でも部分的な閉鎖はあるもののブラッコムでいえば全コースがオープンされています。

今回のオリンピックは全て既存のコースを活用して開催されるため大会以前も後も一般スキーヤーが滑ることが出来るのです。



ウイスラービレッジインの前で

何れのコースも最終地点は一カ所に集まるように設計されていて迷子になることはないと聞きました。

ウイスラービレッジはホテル、スーパーマーケット、キッズショップとリゾートライフに必要なもの全てが揃っていて、しかも車の出入りが禁止されているため静かで安心、ホテルやコンドミニアムなどの宿泊施設がゴンドラ乗り場やリフトの直ぐ近くにあるためスキーヤーにとって実に便利です。

ウイスラーの呼び名は、以前からこの地に避暑や木材の切り出しに訪れた人々が聞いたマー

モット（リス科の動物）の鳴き声（笛の音＝ホイッスル～ホイッスラー～ウイスラーと転化）に由来すると言われます。

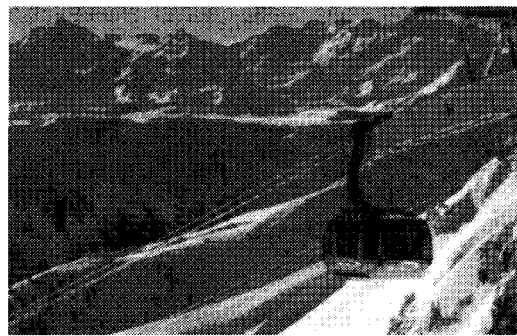
スキー場としては約40年余りの歴史で、スキーコースは木材の切り出しに使われた跡地を計画的に整備したもので、起伏もあり変化に富んでいます。



ウイスラーマウンテンをバックに～

これに対しブラッコムは岩山が多く、山頂の黒く聳える2つの岩がニワトリのとさか(鶏冠)に似ていることからブラック(黒)コム(とさか)と呼ばれるようになったとのこと。スキー場としてはウイスラーよりも新しく25年余りの歴史でコースは全体にやや厳しい感じはありますが、山頂付近の氷河コースは広く平坦な中斜面が続いて夏でも快適な滑走が楽しめそうに見えました。

ゲレンデ資料でも初級コースがウイスラーの20%に対し15%。上級コースが25%と30%となっており、ウイスラーの方が一般スキー客向けゲレンデの多いことが伺われます。



ピーク2ピークゴンドラ

更にスキーヤーにとっての大朗報はウイスラーとブラッコムの両山をゴンドラで繋ぐピー

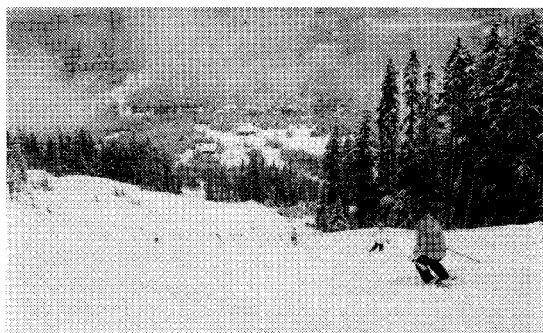


ウイスラーの全景 (左ブラッコム・右ウイスラー)

ク2ピークが出来たことで、全長4.4kmをわずか11分で渡ることが出来るようになったことです。

支柱間隔約3km、谷からの最高地点435m(世界最高の高さ)49秒間隔、秒速7.5mでゴンドラ定員28人のこの施設はアメリカの大企業主が膨大な資金を投じて建設したのですが、途中での揺れを感じることもなくしかも最高の高さのところまで暫く停止するというサービスもあり感動でした。

このお陰で両山を自由に移動して滑走することが可能になりスキーの楽しさが倍加したと言われ、私たちもスキー3日間の内2回移動しましたが午前中ウイスラーで滑り、午後はブラッコムに渡り効率よく滑走を楽しむことが出来ました。



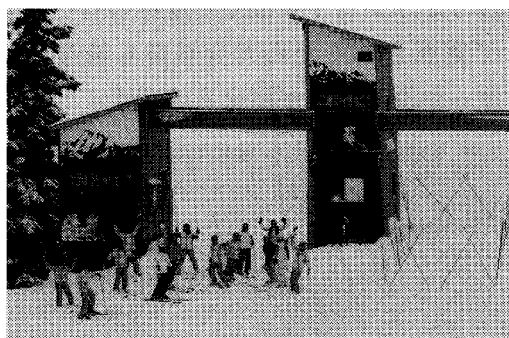
新雪コースでの滑走

### 3 ウイスラーでのスキー

ウイスラー滞在期間中スキーは3日間でしたがガイドは田村大輔・由華夫妻で夏場はバンフを拠点に山岳中心のガイドをし、冬場はウイスラーに居を移しスキーガイドとして活躍されて

おられる人気のガイドと伺いました。

第1日目の朝はビレッジが霧雨模様でしたがブラッコム上部は雪模様でガスリながらも滑走には支障なく、バーンは多少堅さは感じたがガイドの心配りで中斜面コースを選んだためまずまずのスキーが出来ました。



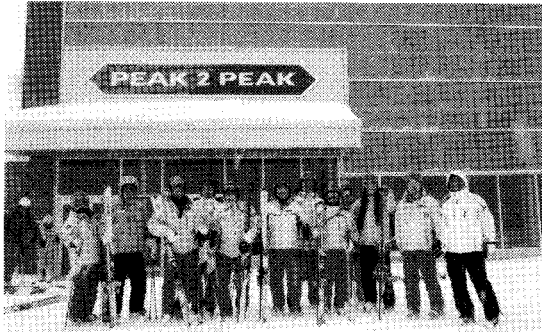
オリンピック滑降競技スタートハウス前で

コースの選定も慎重さを感じつつも変化のあるコースを選んで滑らせているように思われました。昼食の後ピーク2ピークでウイスラーに渡り、長い中緩斜面を体験した後中間駅まで降りゴンドラでビレッジへ戻り第1日目のスキーを終了しました。



グレイシャークリークでの昼食

この霧の中での滑走中ゴーグルや眼鏡につく水滴を拭き取るシーブレードという小物をガイドで紹介され試用しましたが大変優れ物で好評でした。



ピーク2ピークゴンドラ駅前で

第2日目は前日より視界も良くしかも上部では前夜25cm程の降雪があり最高の条件。雪が軽くて程よい感触で滑ることが出来ました。

ガイドによると4月中旬にこのような好条件になることはめったになく極めて珍しいとのことでした。

午前はオリンピック滑降コース（スキー場開発の発想者ディーンマリーの名を冠した）スタート地点から一気に中間付近まで滑走し気分を良くした後、恒例のサーモンランチ（ワンドリンク付き）を楽しみ、午後リトルウイスラーのハーモニーウエッジ滑走を目指しましたが視



ピーク2ピークゴンドラ内で

界不良のため近道を経てラウンドハウスに戻りこの日の滑走を終わりましたが、札幌の2月の最盛期を思わせる雪の感触を味わえたことに一同大感動でした。

第3日目 朝から一点の雲もない快晴。風もなく前日の好条件が保たれていて素晴らしいコ

ンディション。ホテル前で記念撮影後直ちにウイスラー山頂を目指す。

山頂ではオリンピックのシンボルマーク石像のイナラック（先住民族イヌイットが狩りや旅に出るときの道しるべとして使われたイヌクッシュ＝友達の意）が、ブラックタスクなど見事な背景と共に迎えてくれた。



ウイスラー・ラウンドハウス前

この朝のウイスラー頂上からの眺めは素晴らしく、ブラッコム全山が2つの黒い岩山を頂き輝いて見え、イナラックの背景にはブラックタスク（黒い岩）を中心にして2,500m級の白い山脈が連なる、その景色の見事さに心奪われる一時を過ごしました。その後新しく開発されたシンフォニーホールに滑り降りましたが、このコースがまた素晴らしく、長いコースも完璧に整備されていて緩急の変化もあり、滑走意欲を満喫させるものでした。



ウイスラー山頂・イナラック前で

コース下部のカナダ松の茂る樹林帯に入ると狭く区切られたコースが数本作られていて、樹の合間を縫って滑る楽しさを味わえるように能力別に上・中・初級別に設定されていて、コース設定のために森林伐採を最小限に抑え、自然

環境保全への配慮も感じさせられました。

午前は新コース「シンフォニーボウル」を満喫した後、再びピーク2ピークからの景観を楽しみながらブラッコムへ渡り昼食休憩。午後は逆方向からウイスラーの景観を楽しんだ後、前回十分滑ることが叶わなかったヘブンセブンの長い斜面を滑り、最後に残されたショーケースに移りました。



新雪を楽しみながらのトレーン

このコースはウイスラー、ブラッコムの中では数少ない氷河コースの一つで約500mのTバーリフトでブラッコム氷河入り口まで上がり、そこから一気に急斜面を滑り降りるものです。



ショーケース、Tバー終点で

参加者の中にはTバー経験者が少ないこともあり、不安を感じる人もいましたが何とか頂上まで上がり、眼下に広がるホルストマン氷河とグリーン湖の景色を楽しむことができました。

広大で急斜面のショーケースも一見する限りでは全員が何の心配もなく滑り降りてしまい、終わってみればもう一本滑ってみたい未練さも感じた程でした。

その後は迂回コースを経てロックンロールな

ど中急コースを辿り、ブラッカムへ降りるゴンドラ終点駅に到着してウイスラー・ブラッコムでの3日間のスキーを無事に終えることが出来ました。



ハーモニーを滑り降りて



シンフォニー中間点で歓喜のシーハイル

#### ※ 滑って気づく安全対策上のこと

- ① コースには適当な間隔をおいて「スローダウン」の横断幕があり、この幕の下側に停止していると安全です。

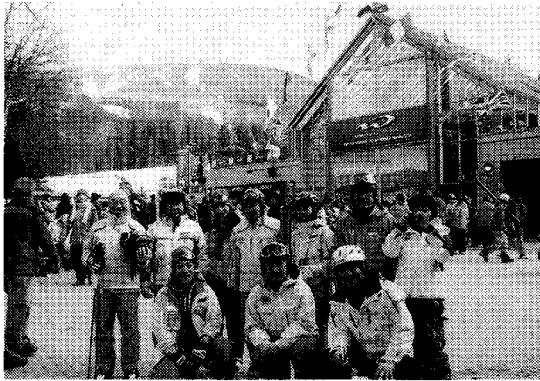


ショーケースからエクスカリバーへ

- ② コースの途中にスピード監視のボランティア（スピードチェッカー）がいて暴走スキーヤーに注意し、時にはパスを取り上げたりコースから出されてしまうこともあ

る。

- ③ 大人数でのトレーンは他のスキーヤーの滑走に支障があるので禁止されている。
- ④ グループ滑走では指導者の指示なしには林間に入ってはならない。(入れてはならない)



一日の滑りを終えて（ウイスラーゴンドラ前）

3日間のスキーを総括すると、前回は5日間のスキーの内2日は霧に巻かれたり雨に降られたり、半日で切り上げたりしたため実質は3日間程度のスキーでしたが、今回は第1日が多少霧はあったもののウェアが濡れるほどのことはなく、徐々に天候が回復して最終日には快晴となり、雪質も2日目朝の降雪で絶好の条件に恵まれた他、何よりも新らしく開かれたシンフォニーや氷河のショーケース、セブンヘブンの長いコースを滑走できたこと。更には一人のケガなどの事故もなく終了できたことが何よりも素晴らしいことと評価したいと考えます。



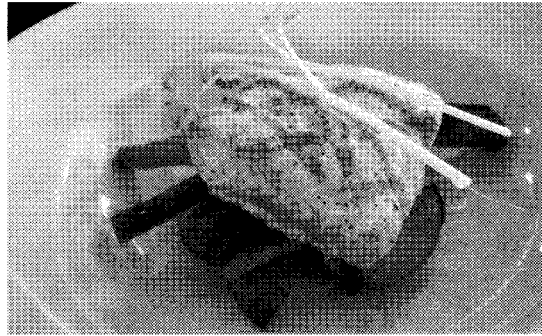
3日間のスキー最終地点で

#### 4 ウイスラーでの生活

ウイスラー滞在の4日間はウイスラービレッ

ジンでの宿泊でしたが、このホテルはフェローの活動拠点ともなっていて私たちにとっては、連絡を取り合う面でも何かと好都合でした。

宿泊室の中にはコンドミニアムもあり、食器類も揃っていてスーパーで買い物をし、好みのメニューで食材を揃えて時間にも制約されずに、しかも安くすませることもできます。



サーモンランチ

食事について言えば、このホテルは軽食の朝食が付いていて数種のパンにミルク、ジュース類に果物など簡素な感じですが、起きがけの体には量的にも不足無く十分でした。

スキー場での昼食はヨーロッパに比べ品数も多く好みに合わせて探すことが出来ます。2日目の昼食にサーモンランチが予約されていて、ワンドリンクのサービスとともに大きな切り身のサーモンの味をゆっくりと味わうことが出来満足でした。



鉄板ビレッジシェフの見事な手捌き

これは太平洋に近いという地の利を生かしたウイスラーならではのメニューだと感じました。夕食は殆どビレッジ内のレストランを利用しましたが、それぞれの好みに応じられる店が

揃っていて温かく迎えてくれました。

訪れた焼肉店には日本人も働いており、中には北海道出身のシェフがいて出されたホタテは彼の発想で網走産のものとのことでした。ウエイトレスの女性は2年目になると話し、この店では言葉の上でも気兼ねなく過ごすことが出来ました。



ウイスラー最後の夕食はスシでした

またウイスラー最後の夜に「米」の味が欲しくなり訪れた「寿司店」は日本人の職人が数人いて、「日本の味」を楽しみながらゆっくりくつろぐことが出来ました。

長旅の上、日中のスキーで体を動かした後の夕食は、楽しく安らぐ時間でもあるのでこのようなレストランの存在は有り難く、個性のあるショップとともどもウイスラービレッジの魅力を構成する大切な要素ともなっています。

買い物の面では、4月に入ったこの時期はスキー客が減り始めることもあり、いわゆるバーゲンの品が見られヘルメットなども極く格安に購入できる利点もあります。

またフェロー発行の割引券を活用して土産物を揃えることも可能で、日本人の店員が揃っている店で買い物をすると品定めも容易です。

ただスキーウエア類などは山頂のランドハウスなどの方が品数も多くビレッジで品切れになっているようなものでも豊富に揃っているように感じました。

## 5 バンクーバーでの観光

(1) カナダ カナダの国名は「人々の集まる場所」という原住民の言葉が由来とされ、人口は3200万人、国歌は1980年制定の「おおカナ



ガイドの田村夫妻と～

ダ」、国旗はメイプルリーフ（カエデの葉）をモチーフにしている。

公用語は英語、仏語で学校でも必修科目となっていて、住民の1/3は英仏の他1カ国語は話すことが出来ると言われています。

以前から人口政策で移住を推奨したため外国人が多く住みますが、バンクーバーでは日本からの移民も多く、チャイナタウンに見られるように中国人街も賑わいを見せています。

最大の人気スポーツはアイスホッケーで、北米のNHLが有名。ウイスラー最後の夜周辺が遅くまで騒がしく聞こえたのは、カナダがリーグ戦で勝利したためと聞かされました。

(2) バンクーバー 市名は開祖のジョージ・バンクーバーからとったと言われ、バンクーバー（58万人）空港のあるリッチモンドや周辺12市を含めて220万人となり、トロント、モントリオールに次ぎカナダ3番目の人口を誇っている。また近年「世界で最も暮らしやすい都市」にも選ばれています。

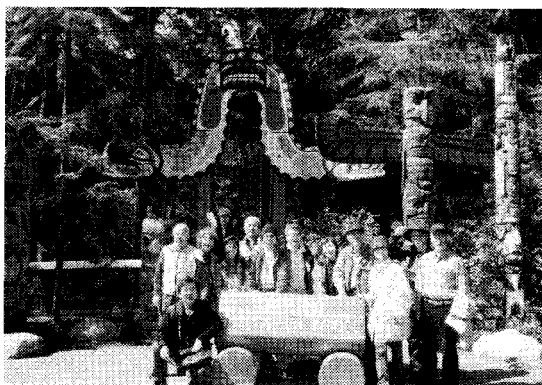


グランビルアイランドの花屋さん

現在2010年オリンピックに向け空港と都市部を結ぶスカイトレーンの敷設工事が間もなく完

成予定の他、ウイスラーへの国道ハイウエー99号線（通称オリンピック道路）も時速90キロで1時間30分の行程に向け、400億ドルの工事費をかけ建設中で現在85%の行程と言われる。

また、昼間でも車が点灯して走っていることが不審に思っていました。1989年以降行われていて、罰則はないもののこのことで車間距離が広くなり事故が30%も減ったと言われ合点する。カナダ産の車はスイッチを入れれば点灯するように作られているが、点灯していない車は旧型車か輸入車だという。



キャピラノ渓谷の入り口で

### (3) バンクーバーの市内観光

#### ア 市内で見られた花木のこと

市内を走っていて目に付くのはソメイヨシノだが今年例年より開花が10日程度遅いと言います。他にベニスモモ、ツツジ、ハナミズキがありカエデ類は120種類にも及び、これらは東部のケベック州で育てられたものが植えられている。花の色で言えばカタクリも黄色（日本産は赤紫色）ミズバショウも黄色（日本産は白）と所変わればの感じがします。

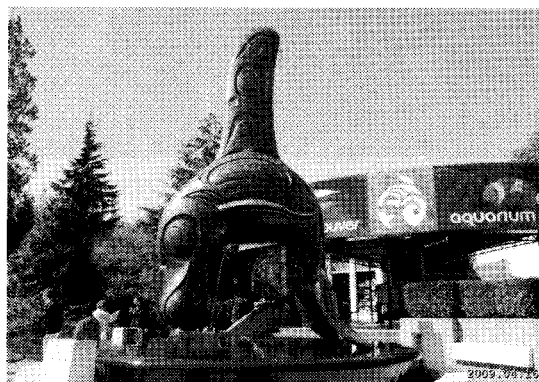


キャピラノ渓谷の吊り橋

ただしこのようにサクラが満開になっても日本流の花見酒は、カナダでは屋外での飲酒は禁止されているため出来ないとのことでした。

#### イ キャピラノ渓谷と水族館

キャピラノ渓谷は50年前に開かれ、原住民酋長の名を取って命名され代替わりはしたが現在も個人の所有で、キャピラノ川にかかる吊り橋は、長さ147m、谷からは70mの高さがあり、川は海から近いのでサケが遡上しその様子が橋の上からも見る事が出来るという。私の目には



バンクーバー水族館

サケとは確認できなかったが大きな魚影が一尾スーッと浅瀬から深みに入ったのが見えました。

この渓谷には今でもブラックベアーも出没すると言われていて、太陽光線の遮られた林床には見るべき植物の種類は少なく僅かにヤマソテツ、シシガシラなどのシダ類が見られるだけでした。



ビニールパイプで遊ぶラッコ

ここでは大径木の幹に架けられた吊り橋を渡って歩く冒険心をそそぐものが興味深かったし、木の幹を傷めない工夫がなされていること



にも感心しました。

バンクーバー水族館はスタンレー公園の中にあり、大型のシロイルカ、ウミガメ、ラッコなどをはじめ約8000種類以上の魚や水生動物が集められているカナダ最大級の水族館で、地下か



高層アパート群をバックに

らも大きなガラス張りのエリアでみることのできる構造にもなっていて興味深く見ることができました。

ウ グランビルアイランド

約250軒の各種店舗が集まった商店街とも言うべき一角で、花卉、装飾品、野菜類、工芸品、果物、生鮮食品、菓子類、グッズショップ、(ビール工房は直ぐ近く)などが何でも屋の感じで超大型の建物の中に混在しているので、お菓子などおやつをつまみながらのんびり歩くのも楽しみ方の一つだと言います。

今回は店舗を見学する組みとカナダの地ビールを味わおうという組みの二つに分かれて行動しましたが、地ビール組みは4種類のビールを飲み比べて味の違いを楽しみました。

水族館で時間をとり過ぎたこともあり、ここ



最後の夜は中華料理店でした

では十分満足な過ごし方は出来なかったものの商店街の規模の大きさや扱う商品の豊富さを知る上では大いに参考になった一時でした。

おわりに

今回のスキーツアーはアルゴにとって5回目となりましたが、創立10周年の記念事業としても大変有意義なものとなりました。

参加メンバーの中にも海外スキー経験者が数名おり、また参加人数も13人とまとまりも良く、しかも天気にも恵まれ十分にスキーを楽しむことが出来、その上一人の負傷など事故もなく出発時の顔ぶれで全員無事に帰国できたことに安堵しております。

シニアという年齢的なことや長旅の疲れ、不慣れた異国での行動というハンデイを乗り越えて無事帰国できたということは、言うまでもなく日頃のトレーニングをはじめ、今までの経験に基づいて念には念を入れた慎重な準備と、行動に当たってはメンバーが常に協力し合い支え合う協働の心と行動力があつたからこそでありご参加の皆様から敬意を表すると共に感謝を申し上げます。



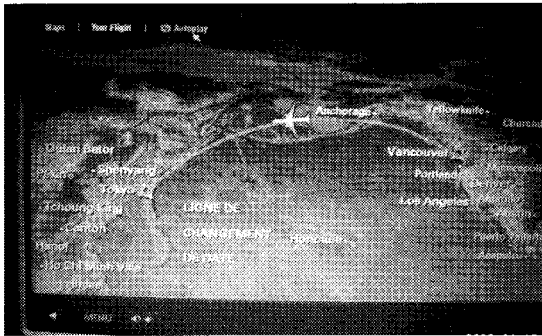
いよいよ帰国～成田空港で

海外旅行でいつも思うことですが、形の上では異国を訪ねその国の歴史や文化を見聞する中で多くのことを学び、それを自分自身の今後の生活に生かすという内面に及ぶ行為だと考えております。

今回に限って言えば普段滑っている山やコースとは違うところで体験した滑りを今後の自分の滑りにどのように生かしていくのか、またコース上のマナーについても日本とは違うス

ピードやグループ滑走、林間への入り方などの規制もありましたが、これをどのように今後のスキー活動に生かしていこうとするのか等々。

またバンクーバーでの観光でガイドから聞いたこと、或いは各所で見聞きしたことは今までの自国での生活では味わったことのないものを



日本への帰国空路

含めて沢山のものを肌で感じたことと思います。

これらのものを単なる「文化の違い」や「あちらでは」といった「出羽の守」に終わらせることなく、今後のアルゴの活動に前向きな形で反映して頂くことを心から期待をしているところです。

ともあれ、ヨーロッパよりもきつく感じると言われる北米からの帰国時に掛る体への重い負担は今回も同じように感じましたが、7日間のハードな旅をご参加の皆様方と共に無事に終えることの出来たことを安堵すると共に改めて深く感謝を申し上げる次第です。

(北海道スキー指導者協会副会長)

(シニアスキーアカデミー・アルゴ会長)

## 《ピーク2ピーク開通のしおりから》

2つの頂きを結ぶ世界一のゴンドラ「ピーク to ピーク」オープン！

# Whistler&Blackcomb

